

計画予定地の概要

計画予定地の位置

あおなみ線名古屋競馬場前駅に近接する名古屋競馬場（敷地面積 約20.7ha）をこの構想の計画予定地（以下「計画予定地」という。）とします。計画予定地は、名古屋市域の南西部に位置し、玄関口である名古屋駅からは約7kmの距離にあり、昭和24（1949）年以降、名古屋競馬場として利用されてきました。周辺には、中川運河を中心に集積したものづくり産業と住宅地が混在しています。

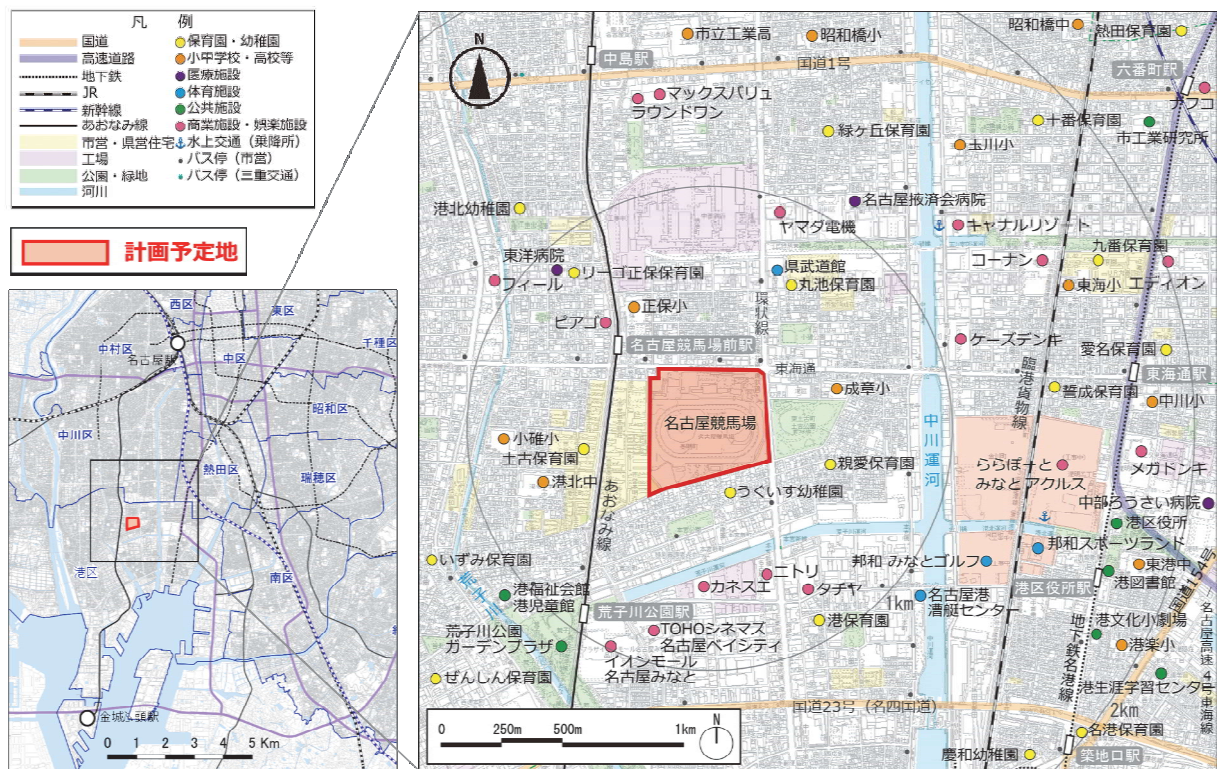


図3：計画予定地周辺の概況

所在地		名古屋市港区泰明町1-1（名古屋競馬場）
敷地面積		約20.7ha
都市計画	用途地域	第二種住居地域、第一種住居地域（約0.2ha）
	容積率	200%
	建蔽率	60%
	その他	準防火地域、31m高度地区、緑化地域
その他の制限		■ 臨海部防災区域（第3種区域） ■ 都市機能誘導区域内、居住誘導区域内 ■ 津波災害警戒区域

2 交通網・周辺環境

■ 道路

計画予定地東側は、国際拠点港湾である名古屋港の物流を支える市道名古屋環状線、北側は名古屋市南部の東西軸を担う市道東海橋線（東海通）が通っています。環状線の24時間交通量は35,588台（平日）、東海通の24時間交通量は37,548台（平日）と非常に多くなっており、両路線が交差する競馬場前交差点は主な渋滞箇所になっています。

※出典：平成27年度道路交通センサス「一般交通量調査」

■ 鉄道

計画予定地直近には、名古屋駅と金城ふ頭駅を結ぶあおなみ線名古屋競馬場前駅が徒歩3分（約200m）の位置にあります。同駅の乗車人員は年間1,210千人（日換算3,317人）であり、増加傾向にあります。また、名古屋競馬場前駅から名古屋駅までは所要時間13分（約7km）でラッシュ時は毎時10分間隔、昼間は毎時15分間隔で運行されています。

※出典：平成29年度、平成30年度名古屋市統計年鑑

■ バス

最寄りの市バスのバス停は、東海通沿いに「名古屋競馬場前駅」、「競馬場正門」、「競馬場」の3箇所あります。運行系統は、地下鉄名港線東海通駅や名鉄神宮前駅に接続する幹線路線のほか、港区西部と地下鉄名港線「東海通駅」などを結ぶ路線が、「名古屋競馬場前駅」、「競馬場正門」は2路線、「競馬場」は4路線あります。

■ その他（計画予定地周辺及びあおなみ線沿線の主なプロジェクト）

近年、計画予定地周辺及びあおなみ線沿線では、各種プロジェクトが進行し、更なる発展が期待されています。

- 2017年 レゴランド開業、ささしまライブまちびらき
- 2017年 中川運河における水上交通定期運航・モニタリング調査（愛称：クルーズ名古屋中川運河ライン）の開始
- 2018年 ららぽーと名古屋みなとアクルス開業
- 2022年 ポートメッセなごや移転拡張（新第1展示館供用開始予定）
- 2027年 リニア中央新幹線（品川—名古屋間）開通予定

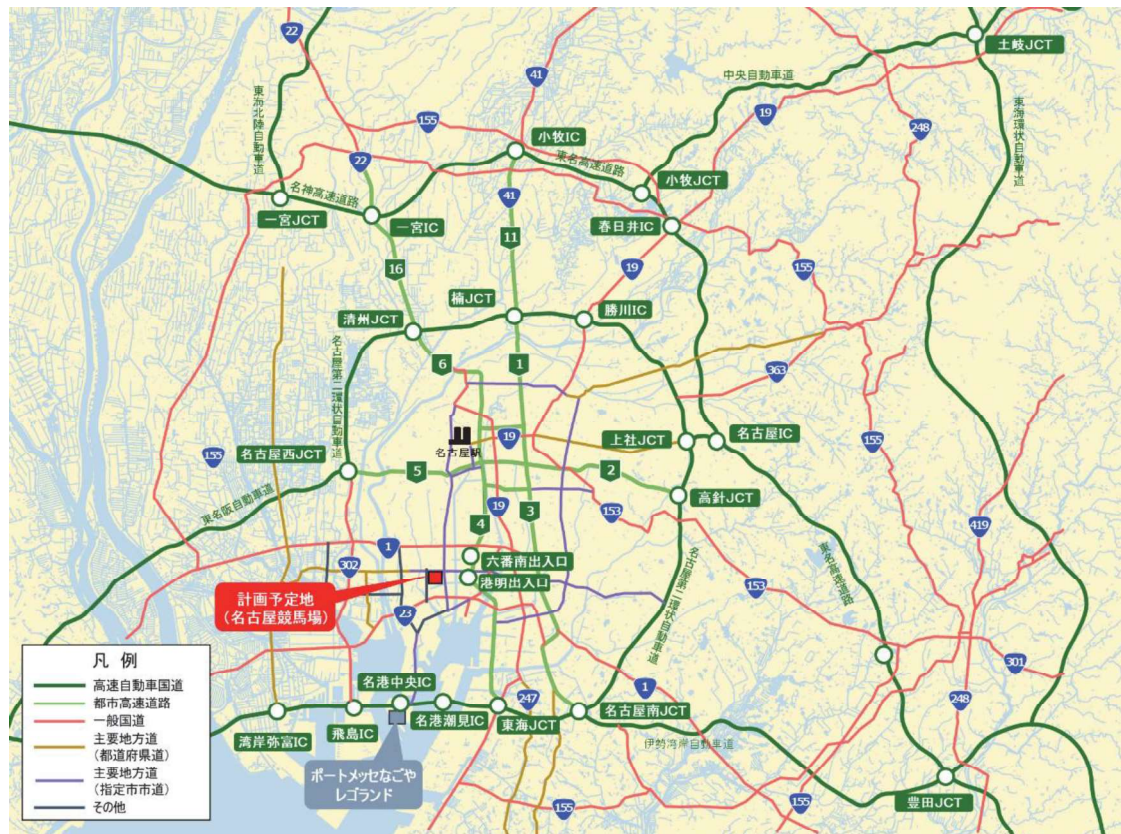


図4：周辺の交通網（道路）



図5：周辺の交通網（鉄道）

2

計画予定地を中心としたまちづくりに向けた現状と課題

計画予定地を取り巻く主な現状と課題を、次のように整理します。

項目	現状と課題	対応
少子化・高齢化に伴う人口構造の変化	●死亡数の増加と出生数の減少により、令和5（2023）年頃から名古屋市は人口減少に転じると予測 ●今後は、社会の支え手である働く世代が減少し、高齢者の増加が見込まれる	未来を担う子どもを安心して生み育てることができる環境作りや、意欲と能力のある高齢者や女性が活躍できる場を拡大するなど、全世代で支え合う社会をつくることが求められています。
価値観・ライフスタイルの多様化	●家族や世帯のあり方、人と人とのつながりが変化している ●近年、外国人住民が大幅に増加	誰もが互いの個性や多様な価値観や生き方を認め合い、安心して生活し、支え合いながら活躍できる環境づくりが求められています。
自然災害に対する懸念	●南海トラフ巨大地震の発生確率が高まっている ●近年、豪雨の発生回数が増加	防災・減災拠点となるハード面や、自助、共助、公助の視点から市民一人ひとりが防災意識を高め災害対応力を向上するソフト面の備えが求められています。
環境の持続可能性に対する懸念	●平均気温は長期的に見ると上昇傾向 ●緑地など、身近な自然が減少傾向	再生可能エネルギーへの転換や省エネルギー、資源循環の推進による環境負荷の軽減や、緑地を増加させ、その自然環境の機能を活用することによる、持続可能なまちづくりが求められています。
リニア中央新幹線の開業に伴う変化	●リニア中央新幹線の開業により、広域的な交流が活発になることが見込まれる ●人口・経済活動が東京に吸い取られる「ストロー現象」の懸念がある	名古屋駅まであおなみ線で約13分の利便性を活かし、新たな経済活動の場を作り、将来にわたって成長、発展していくことが求められています。
交流人口の増加	●来訪する外国人旅行者が増加 ●令和8（2026）年に第20回アジア競技大会を開催	交流人口を増やして都市を活性化するため、地域の観光資源と連携した魅力的なまちづくりが求められます。
産業を取り巻く環境の変化	●IoT、AIなど先端技術の発展により、産業を取り巻く環境が急速に変化している ●少子化の進行により、労働力不足の懸念がある	多様な産業人材の育成・確保や、先端技術の導入による新たな価値の創造が促されるまちづくりが求められています。

3

後利用事業の前提条件

名古屋競馬場跡地におけるまちづくり（以下「後利用」という。）事業を進める上で、以下の3点を前提条件とし、事業を進めます。

アジア競技大会前、大会時、大会後のステップを意識したまちづくりの検討

アジア競技大会前、大会時、大会後の3つのステップを意識した事業を計画します。特に、後利用施設のうち選手村として活用できる施設は、大会前に整備し、選手村として利用した後、大会のレガシーとして有効活用します。また、大会後は、まちの将来を見据え暫定利用も含めて段階的なまちづくりも検討します。

都市基盤等の整備を県市が主導し、地域イメージの転換を図る民間開発を誘導

県民・市民ニーズの高い防災公園等の都市基盤整備を県市共同で進めることで、民間開発を誘導します。

愛知県競馬組合による場外馬券売場を計画予定地に設置

場外馬券売場の配置や規模は、後利用の開発計画と整合を図るよう、同組合と調整します。

4

現状と課題及び前提条件から求められるまちの方向性

現状と課題及び後利用事業の前提条件を踏まえると、つぎのような機能の導入が、後利用のまちに求められていると考えます。

現状と課題

1. 少子化・高齢化に伴う人口構造の変化
2. 価値観・ライフスタイルの多様化
3. 自然災害に対する懸念
4. 環境の持続可能性に対する懸念
5. リニア中央新幹線の開業に伴う変化
6. 交流人口の増加
7. 産業を取り巻く環境の変化

後利用事業の前提条件

- アジア競技大会前、大会時、大会後のステップを意識したまちづくりの検討
- 都市基盤等の整備を県市が主導し、地域イメージの転換を図る民間開発を誘導
- 愛知県競馬組合による場外馬券売場を計画予定地に設置

後利用のまちに求められる方向性

健康・安心

- 高齢者が安心して暮らせること
- 子育てしやすいこと

国際交流・共生

- 世帯や年代、性別、障害の有無などの違いを互いに理解し認め合うこと
- 外国人と日本人が共生できること

環境

- 様々な災害への備えがあり、安心・安全に暮らせること
- 環境負荷が小さく、自然環境の機能の活用により持続可能なこと

賑わい・魅力

- リニア開業による地域の強みを活かすこと
- 人々の交流が活発となり、魅力的であること

先端技術・イノベーション

- AIなどの先端技術の導入などにより、新たな価値が創出されること